

86 誌上発表

Ibn Nafis の肺循環の発見は
なぜ認識されないか？

藤倉 一郎

藤倉医院

Ibn Nafis の肺循環の理論は今日でもなお疑いを持っている人が多い。

心室中隔の血液交通の不在

右心室から肺へいった血液は空気と接触して肺動脈から肺静脈へながれる。

血液は空気と混合して精気を作り、肺を通して左心室へ行くが逆行することはない。

心臓にはアヴィセンナのいうように3つの心室はなく2つのみである。

心臓はアヴィセンナのいうように右心室の血液で栄養されるのではなく、心臓自体の中を流れる血液一つまり冠動脈一で栄養されるのである。

肺静脈が肺動脈から血液を受け取るという両者の間の交通は毛細血管の予告である。

このことは Ibn Nafis が少なくとも肺循環の発見の栄養をうけるべきである。

しかし、西欧ではアラビア医学に負い目を感じてこれを受け入れようとしにくい傾向にある。

Ibn Nafis と Harvey の間には何のつながりがないと否定するのである。アラブの医者も Ibn Nafis の同時代人も彼の発見を知らなかった。Harvey もイタリアの先駆者も独立して同じ結論に達したのだと主張するのである。

Meyerhof の出版後でさえもドイツの権威 Sarton は「Ibn Nafis の説が確立されるなら Harvey の先駆者として中世の偉大な生理学者として最重要な人物と考えられるようになるだろう。私たちはこれを承認できない。このアラビアの本はドイツ人とエジプトの医者が一緒に間違いだらけの翻訳をしたものである。」単に著者がエジプト人であるということに疑問を投げかけているのである。

Ralph Mayor は Nafis が西欧で Tatawy に発見されるまで 700 年も知られていなかったことはおかしなことであると述べている。

Cisneros はガレンやヒポクラテスやアヴィセンナに対する注釈書を書いて、その中に心室間の交通の欠如と循環の概要が書かれているが、西欧ではまったく知られていない。

Nafis の発見は 1924 年の Tatawy の再発見まで、アラブでも西欧でも本当に忘れられていたのではあるうか？

Abi Usaybi'a の「医師列伝」のなかに Nafis のことが全く触れられていないことが問題である。これは Muller 版にもとづくが Nafis と Usaybi'a の間の職業的な嫉妬が伝記作家の省略になったと考えられる。

Nafis が同時代人に知られていなかったということに対する反論が、最近見つかった。

Zain al-Masry によって Nafis の説は逐語訳されている。

Nafis の死後 60 年たって Kazrouny によって作られた Nafis 説のコピーが Kulliyat で発見された。

17 世紀 Nafis の説をある学者が絶賛している。

これらのことから Nafis の仕事のアラブの研究者の間でも知られていないということはない。

15 世紀にイタリアの医師 Andre Alpago はダマスカスに多年住み、アラブ語を学びアラブの文献を研究した。彼は 1547 年ベニスに帰り、Nafis の「薬物学」をラテン語に翻訳出版した。Alpago は短期間パドア大学の教授をしていたのである。

しかし最も悪意ある発言は Curieses del Agua である。彼は同国人セルペートのプライオリティを正当化するために Nafis の存在を徹底的に否定している。彼はビザンチンやアラブの医学の寄与をきっぱりと否定し、新しい独創的な発見も新しい臨床的な観察も何もないのであるから医学から消去されるべきであると主張している。

我が国での著作の大部分は Ibn Nafis を取り上げていない。大部の川喜田の「近代医学の史的基盤」さえ数行で紹介しているだけである。